



開物成務

令和7年1月31日(金)発行

校長 津田 千由美

“すてきさん”が『つくる・そだてる』じまんの学校

しいのみ学習発表会

新たな取り組み「しいのみ学習発表会」では、子どもたちのすてきな姿がたくさん見られました。子どもたちが自信をもって発表したり、目標に向かって努力したりすることができたのは、保護者の方々のあたたかい声援や拍手のおかげです。ありがとうございました。

各学年の取り組みを紹介します。

6年生の発表

6年生は、冬休み前から「1人1分発表会」に向けて、自分なりの目標を設定し、個人練習に取り組んできました。発表内容はスポーツから芸術、趣味、学習など多岐にわたり、参観者から感嘆の声が上がるほどでした。

1分間に思いを込める子どもたち一人ひとりの真剣な表情が、とても印象的でした。6年生の教室には朝から緊張感が漂っていましたが、周りの友達の励ましを力に変え、終了後には爽快感や達成感を得ることができました。今回の経験は大きな自信となり、次への挑戦につながることでしょう。

友達の新たな一面に気づき、改めて互いの違いや良さを認め合うことができるすてきな企画でした。



5年生の発表

総合の学習で、1年間米作りを学んできた5年生…しいのみ学習発表会では、クラスごとに「米作り」に関する発表を行いました。

1組は、スライドやマスコット発表、劇、さらには師匠である鳥海先生のインタビュー動画をまとめました。前日には鳥海先生にお越しいただき、アドバイスをもらいました。

2組は、お米の育て方や調理方法など、グループごとにテーマを決め、スライドや替え歌など表現方法を工夫して発表しました。

3組は、ワークショップ形式で、リースづくりや精米体験などの体験ブース、紙芝居やスライドなどの発表ブースがありました。

一人ひとりが「米作り」というテーマに主体的に関わり、目標に向かって互いに支え合う姿がとてもすてきでした。



4年生の発表

この1年間、総合や音楽で学んだ成果を発表しました。手話ソングにリコーダー奏、合奏、合唱と盛りだくさん…すてきな音色やハーモニーが奏でられました。代表の子どもたちからは、それぞれの曲に対する想いや、学習過程での苦労話などが語られ、また、曲の合間の子どもたちのきびきびした動きからも、「成功させるぞ」という意気込みや本気度が感じられました。

最後の全員合唱ではみんなの歌声が体育館中に響き渡り、「79人みんながいることの大切さ」(代表児童の言葉)が伝わってきました。



3年生の発表

3年生は、前半、各学級で取り組んできた総合的な学習の時間の発表を行いました。

1組は、長縄を使ったハの字跳びとダンスの発表をしました。ハの字跳びは目標だった3分間100回を超えることができました。

2組は、開成町の防災（水害や火災など）に関する学びを、グループごとにスライドにまとめ、ワークショップ形式で発表しました。

最後は全員合唱で締めくくりました。自信をもって、明るく元気よく歌う姿から、3年生が自分たちの発表に満足感を得ていることが伝わってきました。



2年生の発表

国語や生活科、音楽などで学習した内容から、自分が発表したいことを選びました。動作化を取り入れて「お手紙」を朗読したり、生活科で作ったおもちゃの作り方を説明し実際に動かしてみたり、子どもらしさが光っていました。

子どもたちのやりたいことや発想を最大限に生かすために、教師は終始ファシリテーター役となり、子どもたちが自分たちで考えて準備を進めてきました。子どもたちの主体性が生かされ、発表することを楽しんでいる姿が印象的でした。



1年生の発表

図工の作品を用いたファッションショー、跳び箱、詩の暗唱、鍵盤ハーモニカの演奏など、いろいろな教科学習の中でできるようになったことを発表しました。一人ひとりが自信をもち、とても楽しそうに活動する姿が印象的でした。学級閉鎖により一週間延期されましたが、多くの保護者の方にお越しいただき、拍手や手拍子などで応援していただきました。

学級ごとの発表を見合う場や待機中の態度、整列の仕方なども大変すばらしく、1年間の成長を実感しました。



しいのみコンサート

足柄上郡出身の若手サックス奏者 山崎瑠奈さんをお迎えし、全校参加型の音楽鑑賞会を実施しました。サックスという楽器を初めて見たり、本格的な生演奏会を初めて体験したりする子どもたちも多く、興味津々なまなざしで鑑賞していました。

鍵盤ハーモニカとリコーダーによる「きらきら星」のコラボレーションや、サックスでの校歌伴奏もあり、参加者みんなが一体となって、とても豊かな時間を過ごすことができました。



わたしのひとりごと

「本番は緊張して失敗した…。練習ではできていたのに悔しい。」
練習の成果がだせなかった、いつもはできるのに今日に限ってダメだった…。その思い、よくわかります。十分大人になったはずの私自身も、いまだに落ち込むことがあります。
でも大丈夫。これからは、イチロー選手の言葉を思い出しましょう。人間は「不完全だから進もうとできる」のです。落ち込めるくらいに一生懸命頑張ったことを良しとし、次なる目標に向かってともにチャレンジを続けていきたいと思います。そんな大人の背中を見て子どもは育ちます。

先日、イチロー選手が、アメリカ野球界で日本人初の殿堂入りを果たしました。満票選出に一票足りなかったイチロー選手は、メディアのインタビューでこんなことを語っていました。
「一票足りないというのはすごくよかったです。中略、生きていくうえで不完全だから進もうとできるわけで。そういうことを改めて考えさせられるというか、見つけ合えるというか、そこに向き合えるのはよかったと思います。」